

## フライブルク自転車展 (bike aktiv) 参観報告 及びフライブルク市内自転車小売店調査

### 1. フライブルク自転車展

ドイツ南西部のフライブルクにて自転車展「bike aktiv」が、キャンピング車&アウトドア展、フィットネス・ウェルネス展及び観光旅行展と合同で開催された。

#### 【bike aktiv】

主催及び会場： Messe Freiburg

会期： 2010年3月19日(金)～21日(日) 10:00～18:00

使用ホール：

ホール4；自転車展「bike aktiv」、フィットネス・ウェルネス展「fit for life」

ホール3；観光旅行展「ferienmesse」、

ホール1；キャンピング車&アウトドア展「caravan&outdoor」

入場者数： 24,000人 ※全展示会合計数値

出展社数： 自転車55社、 フィットネス・ウェルネス63社、観光旅行77社

キャンピング車とアウトドア155社 ※出展ガイドより集計、重複出展あり



メッセ・フライブルク



ホール4の様子

標記自転車展は、総合レジャー展「cft」の一部として、キャンピングカーとアウトドア、フィットネスとウェルネス及び観光旅行、更に前週の工作模型展と共に開催された。メッセ会場は中央駅からバスで15分程、運行本数も少なく公共交通機関の接続はよいとは言えないが、自動車による来場者ために十分な駐車スペースが用意されていた。

自転車展のホール4は最大面積を占めるが、他展の出展者や自転車関連品を含まないシューズやスポーツ用品だけの小間もあり、純然たる自転車関連出展者は、より少なかった。また、出展品目によって各展の出展者リストに重複している企業もあり、総合展全体としても他都市のレジャー展に比べ小規模であった。

自転車関連出展者は、地元小売店ブースが中心で従来からスポーツ車の人気が高い南部地域らしく、スポーツ車はシンプロン、センチュリオン・メリダ、トレック、ジャイアント及

び CUBE 等と充実し、シティ車、トレッキング車ではコガミヤタ、ガゼレ、VSF Fahrrad（独自自転車小売組合ブランド）及びステッペンウルフ等が展示されていた。また、電動アシスト自転車は、フライヤー、コガミヤタ、ジャイアント、ガゼレ、ダイヤモンド及び R&M などが揃い、簡素であるが試乗コーナーも用意され、ここでも電動アシスト自転車が注目を集めていた。

同展は来年も同所にて 2011 年 3 月中旬に開催予定である。



自転車小売店ブース



試乗用の電動アシスト自転車



試乗コーナー

## 2. フライブルク市内自転車小売店調査

調査実施日：平成 22 年 3 月 18 日（木）及び 19 日（金）

訪問地域：フライブルク市内

### 調査店舗①

最初にフライブルク中央駅よりバスを一度乗り替え 30 分程の郊外にある大型店を訪問した。同店はドイツ国内 326 店を有するスーパー「real」の店内 2 階売場にある。同スーパーは従来から自転車販売を手掛けていたが、同店は自転車小売専門店として昨年オープンした第 1 号店である。

広大な売り場には約 500 台近い自転車が陳列され、車種別ではシティ車 100 台、MTB 類型車 100 台、トレッキング車 100 台、折りたたみ車 20 台、幼児・子供車 100 台等が展示され、価格帯は、300～600 ユーロ (38,100～76,200 円) が中心で、更に 200 ユーロ (25,400 円) 以下の特売品も展示されていた。電動アシスト自転車は 20 台程展示され、販売価格帯は 700～1,000 ユーロ (88,900～127,000 円) と専門店の扱うものの半分ほどの価格であった。

しかし、安価なものばかりでなく上級車種として、スポーツ車を中心に価格帯 700～1,000 ユーロ (88,900～127,000 円) のロードレーサー 30 台、MTB 30 台等も展示されていた。また、オリジナルブランドを中心にした部品・付属品も多種揃え、求めやすい価格設定で豊富な品揃えという店舗構成であった。



フライブルク店の様子 (※写真提供 real, 転載禁止)

今のところ、従来から量販の売り場で扱う商品を大量に揃えた、質より量という印象が拭えない。また、訪問日の昼間は平日で店員数が少ないと感じたが、顧客への適切な購入助言など接客サービスは自転車小売専門店にとって大変重要なものであるため、週末などの繁忙な時期には、十分な体制が敷かれるものと思われる。

現状を見る限り、自転車小売専門店とまだ差があるようにも見受けられるが、ドイツ国内に展開する同スーパーの販売力は侮り難く、今後、その内容が更に充実すれば既存小売専門店の強敵になる可能性は十分にある。この秋にはドイツ西部に第 2 号店が開店予定であり、この専門店展開の成否は注目に値する。

## 調査店舗②

次は中央駅からトラムで10分程の場所にあるスポーツ車中心の大型店を訪問した。ロードレーサーはキャノンデールをメインにシンプロン、リドレー、ウィリエール等100台が展示され、価格帯は、1,500~2,500ユーロ(190,500~317,500円)であった。フレーム単体も30本程が並びMTBはトレック、センチュリオン、シンプロンを中心に100台余り、中心価格帯は1,000~2,000ユーロ(127,000~254,000円)と、両車種とも高額車が揃っていた。シティ車、トレッキング車はダイヤモンド、VSF Fahrrad(独自自転車小売組合ブランド)など50台、価格帯は700~1,000ユーロ(88,900~127,000円)であった。



調査店舗②



店内の様子



MTB 売り場



ロードレーサー売り場

電動アシスト自転車は、フライヤー20台、ダイヤモンド5台のほか、R&M等合計30台が展示されていた。2009年は同車種をこの店で90台販売し売り上げは好調であった。2010年は更なる売り上げ増加を期待していると述べていた。



電動アシスト自転車コーナー



付属品、ウェア類コーナー

### 調査店舗③

続いて上記店舗②から徒歩 5 分ほどの MTB がメインの小規模店を訪れた。主要ブランド NORCO の MTB 約 25 台のうち、前後サス付 MTB は 1,000～2,500 ユーロ(127,000～317,500 円)、前サス付 MTB は 700～1,000 ユーロ(88,900～127,000 円)の価格帯、その他の MTB30 台とシティ車 10 台程が展示されていた。部品や付属品も MTB 愛好者向きのものが多かった。店内の装飾にも工夫がみられ、会計スタンドは、地元アーティストが作った溶接跡がむき出しの金属オブジェのような特注品で、従来の小売店とは違った雰囲気醸し出していた。



調査店舗③



NORCO の MTB コーナー



店内の様子



狭い通路も活用



会計場付近

#### 調査店舗④

更に続いては ZEG（独自自転車共同購入組合）加盟店を訪問した。店内には KTM、BULLS 等の MTB が 20 台とペガサスのシティ車、トレッキング車が 20 台程展示されていた。価格帯は 300 ～ 600 ユーロ (38,100 ～ 76,200 円) が中心であった。電動アシスト自転車は、屋外の入り口に 1 台展示されていた。



調査店舗④



屋外に置かれた電動アシスト自転車



店内の様子

### 調査店舗⑤

最後に中心市街地に位置するMTB中心の中規模店を訪れた。CUBEのMTBを中心に100台程、トレッキング車等は30台展示されていた。販売価格帯は、700~2,000ユーロ(88,900~254,000円)であった。電動アシスト自転車は、屋外に3台あったがユニットを見ると旧モデルであった。店主も同車種の09年販売状況は芳しくなかったと述べ、同店では電動アシスト自転車の販売にはあまり力を入れていない様子であった。



調査店舗⑤



入口に置かれた電動アシスト自転車



店内はMTBが中心

### 3. まとめ

フライブルクは人口 21 万人程の中規模都市であるが、交通政策上、公共交通の充実と共に自転車交通の促進も積極的に行っている。実際に整備された自転車道を行き交う自転車利用者を街中で多く見かけた。また、フライブルク中央駅の近郊だけでも、数多くの自転車店があることが分かり、人々の自転車利用が盛んであり、そのため高い需要に支えられ都市規模に比べて自転車小売店が数多く存続していることは、自転車都市としての特色の現れでもある。

以 上

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

